

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

教職員一同心から歓迎いたします。これまでお子様を温かく見守り、支援してこられたご家庭の皆様には、心からお祝い申し上げます。

本日の第五十九回入学式に、衆議院議員の葉梨康弘様、竜ヶ崎市長の萩原勇様をはじめ多くのご来賓の方々、そして愛国学園理事長の織田奈美先生のご臨席を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、今日から本校で新たなスタートを始める皆さんは、校訓の「親切正直」とともに、建学精神の「豊かな知識と技術を身につけ、美しい情操と他者を思いやる奉仕心を持って、賢くしとやかな女性を目指す」ことになります。

今年の入学者数は、19名なので、その数字に驚いたかもしれません。入学者が少ないことが、決してマイナスになることではないことをここで強調しておきます。マイナスではなく、皆さんにとってはプラスになるのです。なぜなら、本校のモットーである「いつでも 誰でも 主人公」を様々な場面で

実感することになるからです。少人数だからこそ皆さん一人一人が主人公であり、自分自身がいつでも中心であることがわかります。そうすれば、自分のために、自分自身を最大限に生かしていこうと思えるはずです。そしてそれはこれまで以上に、自分自身に自信を持つことにつながっていきます。

入学生の皆さんは、今同じスタートラインに立っています。しかし、そのスタートラインから目指すゴールは一人一人違います。今日からの皆さんの歩みは、速さを競うものでも、ゴールの優劣を競うものでもありません。何よりも大切なことは、自らを成長させていくことです。これは皆さんに共通していることです。だからこそ、自分を成長させるための種をこの学校で見つけ、それを発芽させ、育てていくことが、皆さん一人ひとりにとって、とても大切になります。種にはとても小さいものがあるように、見つけにくいこともあるかもしれませんが、成長の種はいたるところにあるものです。

例えば、その種は、毎日の授業の中に、学校行事の中に、部活動の中に、級友や仲間との交流の中

に、必ず存在しています。そして、それは皆さんの未来を創る種になるものなのです。

皆さんが愛国学園での三年間でいくつの種を、そして、どんな種を育てることになるかとても楽しみです。

皆さんの未来を創る成長のそれらの種は、コース制の学びや校外活動や系列の上級学校との連携事業などの中にも必ずあります。繰り返して言います。何よりも重要なことは、種を見つけたら、それを育てていく努力を続けることです。育てていくのに必要になる水や養分にあたるものが、愛国学園での三年間の学びなのです。

これからは、中学校までの自己評価や他者の評価に惑わされしないで、「今日からの私」または、「これからの私」という意識を強く持って、新しい自分を創ることに集中していくことが、今の皆さんに一番必要なことであり、一番似合うことだと思います。

今日から、そして、ここ愛国学園から皆さんの未来を創る第一歩が始まります。

今日からの三年間の歩みが、皆さんの未来を創っ

ていくしつかりとした歩みになるように、教職員一同全力でサポートしてまいりますので安心してください。

愛龍高に入学してよかったです、心から思ってもらえるように校長としても、最善を尽くしていくことをお誓いして校長式辞とします。

令和五年四月十一日

愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校長

倉持正男